

レポート課題とレポートの作り方・書き方

目標: 学習・研究の「成果」は、「レポート」(論文, 提案書など)である。
この「レポート」の作り方・書き方を学び、本講義の具体的な課題を把握する。

1. 本日の講義の趣旨:

学習でも研究でも、目標を明確にして始める・進めることが大事である。
具体的な目標, 特に具体的な「成果物」を明確に意識しておく。

学習や研究の成果は、通常「レポート」(報告書, 論文, 提案書など)にまとめる。

書いた物(「成果物」)が無ければ,

他の人にとって 何の役にも立たない。
何の成果もなかったことと同じ。
その人が何をどれだけ学習・研究したのか分からない。
その人を評価できない(評価する材料がない)。
(ゼロ評価になる)

自分にとって 理解し、考えたものが、もやもやしたままになる。
新しいものを創り出し、提示することができない。
他の人から評価してもらえない。認めてもらえない。
そのうち自分でも忘れてしまう。

本講義では、この講義の学習の評価を「レポート提出」により行う。

「レポート(論文)の作り方・書き方」は別紙の講義資料で説明する。

注: (1) 講義時の 投影資料:

「科学情報方法論」講義資料 第7回 「レポート(論文)の作り方・書き方」
2010年11月16日 中川 徹

講義しやすく、受講しやすいように、非正式のスタイルで記述している。
内容は(ごく一部を除き)下記(2b)と同じ

(2) 配付資料:

「レポートの作り方・書き方 - 内容の準備、構成、そして文章の心得 - 」
中川 徹、『大阪学院大学通信』第41巻第7号(2010年10月号)、pp. 1-26。

- (a) はじめに
- (b) 第一部 レポートの作り方・書き方
- (c) 第二部 レポートのための文章の書き方 - 実際的な指針
- (d) 資料1
- (e) 資料2 レポートの作り方・書き方 [A4 一枚のまとめ]

2. 本講義の成績評価のための「レポート課題」

(1) テーマ (主題)

本講義のテーマは「創造的問題解決の方法論」である。

本講義に関連するテーマを自分で選べ。

- 例: 「科学の歴史における仮説の役割」
「ひらめきと創造性についての心理学」
「技術革新の方法論としてのTRIZの意義」
「水洗トイレの改良・技術開発の歴史」
「野口悠紀雄の『「超」発想法』と中川の講義を対比して考察する」
「自分の生活時間の実態と自分の意識を分析し、生活設計を考察する」
その他 自由に

もし上記の範囲でテーマを思いつかない場合には、
情報学部分野内で何らかのテーマを選んで、調査・研究せよ。

(2) 予備提出:

提出物: レポートの「アウトライン」

テーマ名

目的・意義

内容の要点を表わす 見出し, ポイント

主要参考文献

形式: ワードプロ打ち, 1~2 頁程度, 箇条書きのメモ形式

期日: 12月13日(月) 午後6時

提出先: OGU Caddie

(3) 本提出:

提出物: レポート (Wordのファイル、およびプリントしたもの)

形式: ワードプロ打ち。

5 頁以上 (4 頁を越え) 15 頁以内 (表紙含まず)。(A4 版, 40 文字 × 40 行)

正式の「レポート」(報告書/提案書/論文など; 「感想文」でないこと)

期日: 学期末 1月28日(金) 午後6時

提出先: OGU Caddie

注意: 成績評価は、レポートによって行うが、
欠席が5回以上のものには単位を認めないことがある。]

注意: 他人が書いたもの、特にインターネットで収集した文章などを、
あたかも自分が書いた文章であるかのようにレポートに書いたものには、
単位を認めない。(それは「盗作」である。)